

こどものアートによる中心市街地活性化プロジェクト

教育・研究 ボランティア 地域交流

〔代表者〕人文学部 3年 小林 李紗

連携先

水戸商工会議所、(株)まちプラン研究所、
まちの駅みとネットワーク協議会、島崎建
築デザイン

千葉 麻伊 (教育学部 3年)
森島 沙也香 (人文学部 3年)
長谷川 佳代 (人文学部 1年)

顧問教員

齋藤 典生 (人文学部 教授)

参加者

小林 李紗 (人文学部 3年)
大高 牧子 (人文学部 3年)
和田 未悠 (人文学部 3年)
関田 美由紀 (人文学部 3年)
高田 展文 (人文学部 3年)
谷口 智哉 (人文学部 3年)
萩谷 未来 (人文学部 3年)
平野 敬之 (人文学部 3年)
三代田 静香 (人文学部 3年)
春花 (人文学部 研究生)
安蔵 瑞穂 (人文学部 4年)
大武 希 (人文学部 4年)
久保田 真由 (人文学部 4年)
小坂 祐子 (人文学部 4年)
小室 育美 (人文学部 4年)
清水 直樹 (人文学部 4年)
鈴木 浩康 (人文学部 4年)
武石 佳菜 (人文学部 4年)
堀江 真由美 (人文学部 4年)
松崎 志保 (人文学部 4年)
和田 梨沙 (人文学部 4年)
大島 光洋 (工学部 3年)
小坏 久美子 (人文学部 3年)

プロジェクトの申請内容

(1) プロジェクトの概要

これは、水戸市南町の南町自由広場にて
小中学生を対象に、アートをテーマとした
イベントを開くことにより、中心市街地の
活性化を図っていこうとする企画である。

内容としては、南町自由広場内にいくつ
かのブースを設け、幼稚園生や小中学生に
自由にアートを作成してもらう。普段は空
き地になっている南町自由広場に「遊び場」
を設けることで、気軽に中心市街地に足を
運んでもらうきっかけをつくる。イベント
当日は近隣商店街とも連携していく。また、
イベントで作成されたアートは近隣商店街
やまちの駅に設置後、希望があれば近隣幼
稚園・小中学校を通じ返却する。

(2) 連携の方法・内容

水戸商工会議所に協力していただき、近
隣商店街や文化デザイナー学院とのパイプ
役や本プロジェクトの助言を行ってもら
う。また、まちなか情報交流センターに協力し
ていただき、南町自由広場を借用しこのプ
ロジェクトを行う。まちの駅みとネットワ
ーク協議会にポスターやチラシを設置させ
ていただき、広報活動を行うほか、完成し
た作品をそれぞれまちの駅に設置してもら
う。

(3) 実施計画

6月 運営スタッフの募集

第1回企画会議（連携先同士の顔合わせ、日程決定）※定期的開催

7月上旬 宣伝用ポスター作成

→以降 参加者募集のための宣伝活動（商店街、近隣小中学校・幼稚園）

当日ボランティアスタッフ募集

8月 物品確保

9月 プロジェクト実施予定

(4) 期待される効果

ひとつに、中心市街地地域コミュニティの活性化が挙げられる。今年3月に水戸商工会議所などがまとめた「街なか居住推進に係る基礎調査報告書」によると中心市街地居住者の約6割が地域コミュニティに参加していない・できていないことがわかった。特に子育て中とみられる世代で参加率が低い。そこで子供の参加と同時に保護者の参加を狙うことで、地域コミュニティ参加のきっかけになるのではないかと考えている。また参加する子供達には、学校にしかなかった「遊び」の空間を提供できるのではないかと考えている。またこのプロジェクトを通じ、子供達に自分たちの住むまちについて学んでもらうこともできるのではないかと考えている。

また運営スタッフなどを学内・学外で募集することにより、学生と地域の交流が可能になるほか、学生自身にとっても中心市街地に足を運ぶきっかけとなるのではないかと考えている。

これらが中心市街地活性化の起爆剤となる

ことを期待している。

プロジェクトの実施概要

(1) プロジェクトの概要

これは、水戸市南町の南町自由広場にて小中学生を対象に、アートをテーマとしたイベントを開くことにより、中心市街地の活性化を図っていこうという企画である。

内容としては、南町自由広場内に体を使って絵を描くブースを設け、幼稚園生や小中学生に自由にアートを作成してもらい、普段は空き地になっている南町自由広場に「遊び場」を設けることで、気軽に中心市街地に足を運んでもらうきっかけをつくるというものである。イベント当日は近隣商店街とも連携していくことでまちとの繋がりを意識してもらい、また、イベントで作成されたアートは近隣商店街やまちの駅に設置するという予定をたてた。

(2) 連携の方法・内容

水戸商工会議所に協力していただき、近隣商店街や文化デザイナー学院とのパイプ役や本プロジェクトの助言を行ってもらった。また、(株)まちプラン研究所に協力していただき、南町自由広場を借用しこのプロジェクトを行った。まちの駅みとネットワーク協議会には広報活動及び完成した作品をそれぞれまちの駅への設置に協力していただいた。島崎建築デザインには当日キャンバスとして使用するパイプを組立・設置していただいた。

(3) 実施計画

6月 運営スタッフの募集

第1回企画会議

(連携先同士の顔合わせ、日程決定) ※定期的開催
7月上旬 宣伝用ポスター作成
→以降 参加者募集のための宣伝活動
(商店街、近隣小中学校・幼稚園)
当日ボランティアスタッフ募集
8月 物品確保
9月 イベント「あおぞらアート教室」実施予定
以後作品展示

プロジェクトの成果報告

1. イベント「あおぞらアート教室」の開催

予定していた10月25日(土)は雨と強風のため中止となってしまったが、翌日26日は天気も回復したため、予定通り行うことが出来た。イベント当日は「絵画ブース」と「まちの駅ブース」の2つのブースを設置し、「絵画ブース」では130センチ四方のパイプと透明ビニールシートで作った特製のキャンバスを設置し、こどもたちに絵を描いてもらった。「わたしの住むまち」をテーマにしたことで、水戸の中心市街地に目を向けてもらうことを期待したものである。また「まちの駅ブース」では、ポストカードサイズの画用紙に「あったらいいなこんなお店」というテーマで絵を描いてもらった。

同日は第3回「みとワン★グランプリ」と同時開催となり、スペースは狭まったものの、総来場者数約5000人(公式HPより)という大規模イベントの影響もあつてか、目標の参加者数である60人には届かなかったが、50人を集客することがで

きた。参加した子ども達はおそらく初めて見たであろう透明のキャンバスに興味津々で、それぞれが考える「わたしの住むまち」を表現していた。

(みとワン★グランプリHP
<http://mito-1gp.1dblog.jp/archives/2010-01.html>)

完成した作品は後日、南町のまちなか情報交流センターと宮町の goods オーハシ、そして茨城大学共通教育棟1号館玄関広場に展示し、「まちの駅ブース」で描いてもらった作品に関しては実際にまちなか(展示会場)に足を運んでいただいた参加者の方に記念品とともに返還した。

より多くの方にこどもたちが描いたまちを見ていただくことが出来たのではないかと考えている。

2. 成果とこれからの課題

成果としては次の3つが挙げられる。

①中心市街地活性化きっかけの発見

中心市街地でこどもを対象としたイベントを行うことで、こどもたちはもちろん中心市街地に関心を抱いていなかった子育て層も中心市街地に対する関心を抱きやすくなったといえる。また参加者同士の交流ができたことにより、地域コミュニティ参加のきっかけにもなり得たのではないかと考えている。

②アートを通じた「ふれあい」

アートというものは全員が自由な発想で参加してはじめて成果を生み出せるものとの認識があつたので、学生がそのかわりの中核を担うことで、親と子、そして学生

のアートを通しての相互交流が実現できた。

③大学生と連携先との密接なかかわり

今回、水戸商工会議所をはじめ、(株)まちプラン研究所、まちの駅みとネットワーク協議会、島崎建築デザインと様々な機関、企業のご協力により企画を実施に移すことができた。今回のプロジェクトがきっかけとなり、今後も様々な面での連携が可能になったため、活動のフィールドを広くしていきたいと考えている。

反省点

①テーマである「まち」を描くのではなく、自由に描く子どもたち

教室が始まると、まち以外の絵を描く子どもが多く、まちづくりをテーマにするこ

との難しさを実感した。いかにわかりやすく「まち」について触れられるようにするかを考えていくのが今後の課題である。

②非効率的な広報活動

イベント当日は事前予約の参加者よりも当日参加の参加者が多く、需要の大きさを実感した。また大学生のまちへの関心もまだ薄く、スタッフの人数を希望する方もごくわずかであった。

今回のプロジェクトを通じ、水戸という地での子どもを対象としたまちづくり、活性化の可能性が見えた。いろいろな角度から、今後どのように地域とかかわっていくのか、活性化のためのアイデアを考えていきたい。



あおぞらアート教室ポスター



あおぞらアート教室
絵画ブースで絵を描くこどもたち



あおぞらアート教室
できあがった透明キャンバスの絵